

令和5年度 第3回 稲沢市図書館協議会 議事録（要旨）

- 1 日 時 令和6年2月16日（金） 午後2時から午後3時40分まで
- 2 場 所 稲沢市立中央図書館 研修室
- 3 出席委員 ①小中学校校長会代表 小久保規与子
②小中学校教頭会代表 岸美千代
③子ども連絡協議会代表 窪崎香
④図書館ボランティアきらら会代表 田中真由美
⑤図書館ボランティア音訳グループせせらぎ代表 鈴木幸江
⑥子育て支援関係者 浅野順子
⑦子育て支援関係者 服部祐子
⑧学識経験者 世良清
⑨学識経験者 伊東啓子
⑩学識経験者 鶴飼貢
- 4 欠席委員 なし
- 5 会議同席者 教育長 広沢憲治
教育部長 荻須正偉
- 6 事務局 館長 塚本ゆかり 主幹 石川路子 水野正己 光田典代
- 7 傍聴者 なし
- 8 議 題 (1) 令和5年度図書館事業実績（中間報告）について
(2) 第3次稲沢市子ども読書活動推進計画について
(3) 令和6年度図書館目標（案）について
(4) その他

【開会】

（教育長）

・・・教育長挨拶・・・

協議事項（1）「令和5年度図書館事業実績（中間報告）について」

（事務局説明）

（委員）

図書館資料購入につきまして、新聞はどの種類に分類されますか。もしくは、新聞については、購入されていて、現物があることは承知しておりますが、入っていないのでしょうか。

県外市町村の図書館を訪れまして、その土地の資料を収集する際に、新聞の地域版が凄く役に立

ちます。まして1紙だけではなく、複数の新聞社の新聞が並んでいると、非常に役に立つ資料だと痛感しました。是非、稲沢の文化を記録しておくためにも、新聞はどのような扱いをされているかを知りたかったのが、1つ目です。

2つ目は、中央・祖父江につきましては、やはり60代が多いのは確かです。同様に平和町においても60代が多いほうですが、40代に数字で1%劣っております。平和町で、なぜ40代のかたが多く利用されているか、興味深く思いました。

推測するとおそらく、唯一、平和町はコミックがありますから、40代は最近では、若い層であるので、おそらく、これが関係あるのかと勝手に推測してみたところでした。そのあたり、何か資料があれば、40代を含めた若い人たちの層の取り込みに60代以上のかたの利用を妨げるものではございませんが、大勢のかたに利用していただければと思います。特に40代のかたが数字で見ると、中央19%、平和町22%と割合的には多いと思えます。

3つ目としては、7ページの5番棒グラフからわかるのは、7歳から12歳の棒グラフの挙動と30代ないし、40代ないし、50代が同様な割合とは違うかもしれませんが、増えています。おそらく12歳以下の子供たちが30代ないし、40代ないし、場合によっては50代のお父さんやお母さんと一緒に来ているのではと推測できます。

一方、13歳以上29歳までの年齢層がなかなか伸びないことは、ヤングアダルトで大変難しい問題だと以前からお伺いしておりますが、このグラフを見ますと、どうやって10代から20代にかけてアプローチしていくかが一層の課題であると顕在化されたと思います。私も大学に勤務する側の立場として、いかに20代の学生を中心に利用できるような環境になればと常に思っております。

特に2つ目の平和町の40代が多いことについて、お気づきの点がありましたら、教えていただけたらと思っております。

(事務局)

まず、御質問の1番目、新聞の分類に関しまして、毎年、図書館年報に新聞を何紙購読しているか、配架しているか、記載させていただいております。稲沢市図書館といたしましては、特に中央図書館では、中日新聞に関しましては、縮刷版のみならず、現物の保管をしております。それ以外につきましては、大手の新聞は、購入しております。

2番目の年齢別利用者分布の質問ですが、中央と祖父江の森では60代が多いという結果は、どちらも高齢者かたの図書館利用は多いです。実際にコロナ禍を終了いたしましたして、5類に移行してからは、朝から中央図書館に来ていただいて、ブラウジングソファで、1日をお過ごしになる高齢のかたも増えております。

祖父江の森におきまして、同じように、寛いで1日過ごせるスペースがございますので、どうしても割合が高くなってまいります。

それに対して、平和町は、1点目は御指摘のとおり、コミックがあるから親御さんとお子さんが御一緒に来館していただいております。特に土日などは顕著で、親子連れでお母さんとお子さんがそ

それぞれ別のものですが、同じようにコミックを楽しんでいただいております。もう1点はコミックの利用の中心が40代ということが挙げられると思います。

3番目の7ページのグラフの分布につきましては、概ね委員の御指摘のとおりかと思えます。利用者人数について、やはりYA世代の人数は大変低くなっております。これにつきましては、利用者人数でカウントしておりますので、実際に貸出返却をされているかたの世代です。

ここ最近では図書館に入られる利用者のかたにつきましては、10代のYA世代のかたが多くなっております。理由は、テスト勉強と入試の勉強です。ただ残念なことにYA世代のかたにこちらから働き掛けてもなかなか効を奏せず、本を取っていただけない現状がございます。

(委員)

3つ目の質問は昨晚、私が関係している学会で、どうやって本を読む人を増やすかとの議論をして、同じような議論をしておりました。学会ですから研究者や学校の教職員が中心です。最近の若い人は、アナログ文化よりもデジタル文化、すなわちSNSにとりか、そちらのほうに傾向があるので、私個人的にはSNSが全て良いとは思っておりません。

若い人にはSNSに限らず、メール等でプッシュをしていかないと、なかなか座して待っていても図書館へ来てくれない。そういう意味において、1番デジタルにマッチングするのは、この20代、30代ですから、増やすための方策を考えるために、情報を上手に使って、情報機器を使って、プッシュしていくこともありなのかと個人的に思いました。

(委員)

WEB（電子図書館）が始まりましたけど、若い年代がWEBで本を借りて読んでいるか、利用年齢層はわかりませんか。これをやることに対して、若い人がWEBで読んでくれるようになったら、WEBで貸し出すことにも意味があったと思います。そこまでまだ分析はされていませんか。

(事務局)

電子図書館の最新の1月末のデータですが、1番多いのは40代で25.1%、次が50代で20.9%、続きまして30代18.8%、その次が60代、小学生・中学生・高校生の合計ですと約8%、19歳から20代までですと、7.4%です。このような状況です。

(議長)

この1月、ほぼ1ヶ月、休館で、借りるとすれば、電子図書館でということになると思うのですが、1月の状況は、今、説明していただいたような%でしたか。

(事務局)

はい、1月末の状況です。

(議長)

なかなか、やはり、19歳・20代は厳しいですね。まだ、始まって2年目ですので、まだこれからだと思いますが、増々呼びかけて、プッシュしていただいて、増えていく方向へなっていけば良いなと思います。

昨年5月にコロナウイルスが感染症法上2類から5類になっての1年でしたが、ボランティア活

動で御尽力いただいておりますせせらぎ様やきらら会様が1年を振り返られて、何かありましたら、御意見等ございますか。

(委員)

きらら会です。きらら会のおはなし会は、月に2回、第1土曜日と第4火曜日の乳幼児向けが復活しました。月2回です。なかなか、やはり乳幼児向けのおはなし会のほうは、その時間に利用される親子さんがいらっしゃらなくて、声をかけたりすると入ってくださったりして、ようやく少しずつ参加されかたが増えてきたかなと。やはり、その間(コロナ禍)に行動様式の変化とかあって、図書館から離れるということが当然あったと思います。その辺をまた呼び戻すようなことをして行かなければならない。

それ以外に夏のお楽しみ会とかは、かなり皆さん楽しみにしてくださっているようで、かなり人数が多いと聞いております。この辺は、やはりイベント的なものと常時活動のおはなし会とセットで、いかにしていくか、どう盛り立てていくかを考えなくてはいけないのかと思っています。

(委員)

せせらぎのほうでは、この1年は特に通常通り、月1度の「声のおたより」という形でのCDのソフト化、朗読会もできましたし、この1年は特に変わりなくやっておりました。

協議事項(2)「第3次稲沢市子ども読書活動推進計画について」

(事務局説明)

(委員)

配付資料で1番気になったのが、第3次稲沢市子ども読書活動推進計画進行管理表の下の欄の16番目の1ヶ月の不読率の中学校というところでは、令和3年度が13.8%であるのに対して、5年度が29.5%と2倍以上に増加しているのが、とても気になりました。

先程の説明の中で一斉読書がなくなってしまったとお聞きしていたので、この不読率は何かしらの手立てを打っていかないと、また次の年も増えてしまう可能性も考えられると思います。とても危惧したので、ここで発言させていただいた次第です。

(委員)

毎年常に1回、教員が色々な分野で研修に行くことがあります。私は図書館の担当で図書館教育に従事している先生がたと情報交換、または、勉強会があります。そちらでの話を聞くとタブレットが入る前は、朝学校へ来ると読書をするのが中学校でも定着していました。

しかし、タブレットが入ってから、朝学校に来たらタブレットを保管庫から出して、それを見て今日の連絡事項を確認します。なかなか読書のほうに時間が回らなくなってきたと聞いています。朝読があれば必ず毎朝、本を読む、本を読む機会があれば、面白いな、もっと読みたいな、と休み時間に読むと思います。必ず読むという機会は明らかに減ってきていると思います。

県の会議に出席した時に、中学校で本を読ませるために無理やりにでも図書室に連れて行って、本を手取る機会を作るために朝読の時間に教室ではなく、図書室に行って朝読をすることを実践

しているところがありました。そうすると確実に図書室にも図書館にも行って本を手にとるという話を聞いて、それも良いかと、本を読む機会を作らないと難しいと強く思います。

(委員)

本校は、朝読をやっていなくて、ここ数年モジュール学習で時間数の確保のためにやっていました。色々見直していくと、やはり、本校の不読率は、本当に高いのではないかと凄く心配しています。

来年度は朝読を復活しようとする動きがあります。やはり無理やり読まなければいけない。配本サービスでは読書活動に使われる「本だな」系のセットの利用が多いとありました。

しかし、調べ学習はタブレットが普及したとことで、調べ学習では簡単にインターネットで検索できますが、やはり「本だな」(セット) というものを利用していくと良いとこれを見てすごく思った次第です。

読書活動や読書期間は、いつも10月や11月が読書月間や図書館まつりとかお祭りを行っていました。時代の流れで運動会を10月に実施する動きがあり、練習が涼しくなってからとなる。涼しくなった時に、運動をする、本も読むでは、難しいと反省しております。

本校は来年度、思い切って9月の暑い時期に図書館へ行かせて本を読ませる、図書まつりをずらす、時代に合わせて変えていかなければならないと少し思っています。このような動きを行ってみれば、成功するかわかりませんが、とにかく子どもたちを図書室へ行かせる、あるいは本を手にとらせるということを無理やりにでも行う。

最近先生がたの中でも話題になっていますが、子どもたちの不読率が非常に高い。本校も図書の蔵書冊数は非常に多い。しかし、子どもたちを図書室であまり見かけないので、大変困っています。

(委員)

同じところで、私が疑問に思っている点ですが、29.5%という数字で見ると突出している。しかしながら一方では、14番を見ますと平均読書量は、令和3年3.93冊に対して、令和5年4.0冊と伸びているというよりは、横ばいであるとする、この不読率とは、即ち読む子と読まない子が二極化しているのではないのか、と分析できます。

従って、図書館に連れていけば、いやでも本を手にとると思いますが、読まない子への対応とターゲットを絞った指導が大事ではないのか。逆にもし29.5%という数字が正しいとすれば、相対的に令和3年よりも読んでいる子は沢山読んでいると理解できてしまう。そこをどう分析するのか。仮説で申し上げるのですが、そこをきちんと見極めた対応が大事ではないかと個人的には思います。

委員がおっしゃっていたタブレットを用いてということに頷けます。そのタブレットで連絡事項がメールなどで行くことだと思うのですが、これは良いか悪いか意見が分かれるところです。

いわゆる電子ブック、電子書籍という手だてもあろうかと思うのですが、勿論これは無料ではありませんから、予算の関係のこともあるだろうと思うので、その辺りは、どんな風にお考えなのか興味を持ったところです。

(事務局)

アンケートの1ヶ月の不読率の質問には続きがありまして、1冊も本を読まなかった子への質問としまして、「読みたかったか」、「読みたいと思わなかったか」、どちらですかという質問がありまして、「読みたかった」14%、「読みたいと思わなかった」85%です。読みたかった子に対して、「どうして読みたかったのに読まなかったか」との質問に対しましては、「読む時間がない」との回答が67%ありました。

一方の読みたいと思わなかった子に対して、「どうして読みたいと思わなかったか」との質問に対して、「他にやりたいことがあった」が64%、「本を読まなくても困らない」が13%、「本を読むのが嫌い」が21%という結果となりました。

先程、委員の、読む子は読むが読まない子は読まないのでは、との御質問ですが、前回のアンケートでは、中学生で1冊から3冊を1ヶ月で読んだ子が1番多く52%。今回のアンケートで、1冊から3冊を読んだ子が半分以下に減っていますので、1人当たりの読んだ冊数が増えていると思われます。

(事務局)

補足をさせていただきます。まず1点ですが国の調査につきましては、大体毎年5月頃に調査します。対象は、小学生は4年生から6年生の高学年、中学生は2年生ですので、稲沢市の調査と同等です。稲沢市の子ども読書活動に関するアンケートは通常9月から10月の期間にさせていただいております。

「1ヶ月間に本をどれだけ読みましたか」との質問になりますので、実施する時期によっては、夏休み期間が含まれていることもあります。従いまして、いわゆる学校の活動の中でやや強制的に読書をやっている期間ということもある程度想定しなければならないので、著しく高い数値という部分でも、その辺の検証が必要かと考えております。

それから、過去に第2次子ども読書活動の時に1回アンケートで学校の活動以外で、本を何冊読みましたかとの質問を行ったことがあります。その時の不読率の高さは、目を覆うほどで、やはり、学校での読書活動は、かなり重要な位置を占めているのではないかと思います。

(委員)

電子書籍は、全く学校はそういうものは一切ないので、図書館でこういうことをやっているよと、子どもたちに宣伝はされているとは思いますが、子どもたちが電子書籍を読んでいるようには思えないです。

子どもたちのようすを見ているとSNSでのゲームとか、そういったことのほうが圧倒的に今は主流であって、本校のような自然豊かな所においても、あまり例外がなくSNSが全国・全世界に繋がっていますので、ああいうもので繋がっていることのほうが多い感じがします。

電子書籍の話は、全く職員の中からもない。学校からは全く程遠いところではあります。タブレットでもそうですね。

(委員)

私はアナログの紙の本が良いと本来的には思っています。ただ、最近の若い人たちは大学生に限

らず、もう少し上の世代でもキンドル (Kindle) などで簡単にダウンロードできる。そんなに価格も高くないので、もう紙の本は買わない。だから、市内の市中の書店が潰れてしまう問題があります。

決して良いとは思いませんが、なかなか本を手にとってくれないという話であれば逆手に取って、子どもたちがタブレットに触れる機会があるということなので、先生の仕事が増えてしまうかもしれませんが、有料の電子書籍を購入するとお金が掛かってしまいますので、例えば、手作りのお話とか、そういったものを電子書籍化しサーバーに置いておけば子どもたちが朝の読書の時にタブレットを見ながら読んでくれるかもしれない。例えば、稲沢のまちについての説明とか、今度神社のお祭りもありますけど、そんな風景、郷土の文化という意味で、そこで宗教活動するわけでないにしても、こんなイベントがありましたよとか。

いわゆる学級通信のようなイメージで、それを電子化して、子どもたちに提供することもありか、紙の本を読んでくれないということに対して、どう対応するのか、積極的に逆の手を打つのもありなのかなと思いました。

協議事項 (3) 「令和6年度図書館目標 (案) について」

(事務局説明)

(委員)

図書館の目標についてお伺いしましたが、物の充実はお金さえあれば簡単にできることですが、目に見えないものに対しての充実は、余程計画的にやっ行って行かないと充実はできないと思います。それが先程からも第3次子ども読書活動の中でも話題になっていたように見えないものを簡単に買うということではできません。

また、保護者の家読の認知度が非常に低いですね。そういった低いところに対しての充実という言葉は便利な言葉ですが、そこに対してのもう少し細かい方法が出てこない限り変わらないと思います。

例えば、私が1番気になっていたのは、保育園とか子育て支援が凄く気になります。1番の「乳幼児に対するサービス」で、ブックスタートと絵本の読み聞かせがありますよね。

それは現状維持であって、そこから更に充実するために、例えば図書館の児童書の児童には学童も含まれますので、もっと低い部分 (乳幼児) のところの新着の新しく購入された絵本の情報提供、そのようなことをしていただけると、例えば保育園の現場だったり、乳幼児が利用する子育て支援の現場だったりするところに、そのような情報がいただければ、更にそれを見て、図書館に来たり、本を借りたりする人が増えるかと思いました。

ただ、現状維持だけではなく、一歩進んだ充実の施策をしていただけると、ありがたいと思いました。

(事務局)

この御意見は大変耳に痛いことで、まだ開設には至っておりませんが、この2月に稲沢市のホー

ムページがリニューアルをいたしました。画面構成も変わりまして、現在順次更新手続きを継続して行っているところでございます。その中にこれまで稲沢市図書館のホームページとして、設置しておりませんでした子どものページを今後増設していく予定です。

順次そのような使える子供向けのホームページに展開していきたいと考えております。

(委員)

先日、新聞に子どもの本総選挙のニュースがあったのですが、稲沢市の小中学生の子は参加しているのか、という疑問があります。それから、息子がフィンランドにいる関係でフィンランドの情報が時々入ってきます。

フィンランドでは大統領選に合わせて子ども選挙が行われて、投票箱も投票用紙も大統領選挙と同じものです。子ども選挙では5冊ぐらい自分の好きなキャラクターを選んで投票します。その3位に日本の「おしりたんてい」の主人公が選ばれたらしく、小さい小学生や中学生の頃から同じ投票用紙とか投票のしかたで、投票の大切さや民主主義について学ぶ機会が、子どもに与えられています。

教育長がおっしゃった図書館の違った役割もあつたりします。無理やり図書館へ引っ張っていくのではなくて、子どもにとって選挙とか投票とか自分の好きなことであつたら、ちゃんとした気持ちをもって参加したり、友達に紹介したり、自分の好きな主人公を1位にしたい。こんな気持ちが湧いてくると思います。

(議長)

子どもの本総選挙に稲沢市は、どうですか。

(事務局)

関係していないと思います。図書館窓口には、来ていないと思うのですが。

(委員)

一応、チラシとしては来るのですが、学校で行うには煩雑かと思います。集めたり、その上にも一手間あつた気がするので、それを忙しい現場の中で、これやってくださいと、とても私としては言えないと思ったことがあります。

(委員)

高齢者、障害者に対するサービスで、声の図書の作成と郵送サービスがあり、現在は視覚障害者のかただけ郵送サービスを行われていると思うのですが、これから、高齢者とか、例えば病気で入院中に、こういう図書が聞きたいとおっしゃるかたに郵送していただけるようにならないでしょうかとの質問です。

もう1点は、閉架図書の基準について、どういう基準になっているのかをお聞きしたいです。

(事務局)

声の図書について回答させていただきます。先程、視覚障害者のかたを対象にとおっしゃられたのですが、先日認知症によって、目で字を読むことができなくなったという症状のかたから、御相談がありました。そのかたに対応するため、利用条件を変更しました。

今までは「障害者手帳をお持ちのかた」という条件でしたが、「文字を認識することが難しいかた」と条件を緩和し、先月からご利用いただいております。入院しているかたにつきましては、今後検討してまいります。

閉架書庫へ移管する基準について明確な基準はございませんが、利用頻度とか内容の古くなったものとか、結局開架で収まりきらないので、その中から、現在窓口委託をしておりますTRCから閉架に入れる候補書として、いくつかを出してもらっています。

実際、閉架に入れるのには忍びないけれど実際入れないと完全に飽和状態で、なんともならない場合に、ここから続巻は閉架へとか、そういう但し書きを付けて入れたこともございます。

実情から申し上げますと基準があるかどうかとの御質問に対しては、明確な基準はございません。ただ、利用頻度とか内容の状況を加味して定期的にTRCから候補書として、事務室に届きますので、そこから移管しているのが実情でございます。

(委員)

市内大学との提携について昨年度も連携講座として開催させていただきました。他のイベント等を拝見していますと少し相談したいことがあります。

子どもたち向けの英語の読み聞かせをしようかなと考えております。本学の英語の教員で名古屋市内の図書館での実績のある者もおります。もしまた、御相談をさせていただきまして準備の期間があるので、すぐできるかどうかは私がやるわけではないので何とも言えませんが、例えば、秋の読書週間、月間の頃とか、できればもっと早いほうがいいと思っています。

小学校で英語の授業があつて、これからだいぶ英語の授業が入ってきますので、親子で参加していただければいいと思いますので、おそらくニーズがあるかと思っています。

また、今日も朝お声がけしていただきましたが、昨今著作権に関する世の中の興味が非常に増えておりまして、例えばオープンAIによる生成AIの問題とか、先程言っておりましたが、マンガ家の作品の映像化をめぐって、大きなトラブルが起きています。あれも著作権の問題が根本にあります。

もし、御興味があるようだったら、引き続きともに大学連携講座を開催する機会をいただければ、お役に立つようであれば、子どもたち向けの英語の読み聞かせをさせていただきたいと思っております。

(委員)

今日は特にチラシがあつて、ほっとしました。図書館だから今の時代の流れに沿って話題作を展示されるのは、非常にインパクトがあつて良いと思いました。国府宮神社を通る時、松下町に赤染衛門公園の大きな看板が立っておりますが、通り過ぎておりました。ところが源氏物語(「光る君へ」)が始まりましたら、赤染衛門が登場したみたいですね。

そこで、市長もそのイベントをやるかなとおっしゃっていました。赤染衛門について調べましたら、小倉百人一首の59番に恋の歌が載っているのです。こんな人が、稲沢に住んでいたことに非常にすごくワクワクしました。すごく身近に感じました。

図書館でも、このようなイベント・展示を地元の意味で講演会でも良いのですので、なにか光る話題を図書館でお願いできればありがたいと思います。

協議事項（４）「その他」

（事務局説明）

資料については、後日配布。概要のみの説明。

（議長）

今日、資料については、ないということですが、概略を御説明していただいたと思います。何か御質問はよろしかったでしょうか。

紙媒体につきましては来年度、最初の会議の時に配付していただけたと思いますので、またその時に、御意見・御提言を行われましたらと思います。

他に意見もないようですので以上を持ちまして、協議事項を終了させていただきます。大変、御意見・御提言をいただきありがとうございました。本日提出されました協議事項につきましては、皆様の御協力により承認されました。

また、議事がスムーズに進行できましたのも皆さんの御協力によるものでありまして、ありがとうございました。これを持ちまして議長の職を解かせていただきます。それでは、進行を事務局にお返しいたします。よろしくお願いいたします。

【閉会】

（教育部長）

・ ・ 教育部長挨拶 ・ ・